

令和4年度 千葉市立葛城中学校 学校評価アンケート集計結果と今後の改善について（報告）

昨年度は学校関係者アンケートを見直し、評価項目の一新を図りました。今年度は、昨年度との相違を比較することで、次年度に向けて教育活動の改善と充実を図っていくための材料としていきます。

1 生徒のアンケート結果から

今年度は、7「授業中、話を聞いている」、8「先生はていねいに教えてくれる」、9「マナーや決まりを守って生活している」、19「先生はあなたの話を聞いてくれる」の各項目で、4点満点中3.5以上と良好な結果がみられました。多くの生徒が規範意識をもって学校生活に臨んでいることや生徒と職員が良好な関係を築いたことが、これらの結果につながったと考えます。また、23「葛城中生で良かったと思う」(3.6)も良好であり、生徒会活動(3.4)や部活動(3.4)など生徒の自主的な活動を重んじたことにより、学校生活の充実(3.4)が図られた成果だと考えられます。

一方で、昨年度も課題であった5「学習に対する楽しさ」(2.9)や6「自分の考えや意見を発表する」(2.4)の評価が他の項目に比べて低く、学習活動の充実に課題があることがわかります。昨年度より実施されている学習指導要領では、生徒が身に付けるべき資質能力が3つの柱で整理され、主体的・対話的で深い学びの視点から指導改善、学習改善に取り組む必要があります。主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びを実現するツールの一つとして、GIGAスクール構想による一人一台のタブレット端末（通称：ギガタブ）の効果的な活用が求められています。ギガタブの効果的な活用を通して学習の魅力を引き出したり、自己の考えや思いを積極的に伝え合ったりする授業を行うことで、生徒の学習意欲の向上や自己表現する機会を増やせるよう取り組んでいきます。

また、昨年度から本校でも行われるようになったボランティア活動は、活動に参加する生徒が偏り、意欲的な生徒とそうでない生徒の差がアンケート結果にも反映されています。活動の充実はもちろん、生徒がより参加しやすくなるよう体制の整備などを進めていきます。

2 保護者の学校関係者評価結果から

今年度も昨年度同様、1「本校の教育目標や重点目標への共感」、5「学校に楽しく通っている」、10「基本的な生活習慣の定着」、29「葛城中学校生徒でよかった」の項目で、よい評価が見られました。特に多くの生徒、保護者が本校に通うことを好意的に捉えていることは、本校教職員として大変うれしく思います。また、23「学習環境の整備」、26「保護者への連絡や面談」、27「授業参観や懇談会」、28「学校だよりやホームページ」などの項目でもよい評価をいただきました。また、15「学校行事の充実」は昨年度に比しても大幅な数字の改善が見られました。コロナ禍においてもできる限り生徒の活動の充実を図り、保護者が学校の様子を直接見聞する機会を増やしたことや、各おたよりやすぐーるでの配信などを充実させたことの成果と捉えています。

29の質問項目の中で、特に「教科指導」「キャリア教育」で低い評価が見られました。「学習」

に対しては、今年度夏季休業中の学習相談日を設けるなど新たな試みを行ってきましたが、生徒の学習意欲を引き出すとともに学習内容の理解度を高めるために、さらなる指導の改善を図っていく必要があります。

3 職員アンケートの結果から

教職員の自己評価については、職員が本校の重点目標を理解し、教育活動に意欲的に取り組んできたことが確認できました。また、行事に関する自己評価は軒並み高くなっており、生徒の活動を充実させたことの成果と考えられます。さらに、わずかではありますが、昨年度課題であった「適切な評価」の項目が改善されています。これは研修の充実を図ったり、教科での会議を定期的に設定したりしたことの成果であると考えられます。本校では評価方法をまとめた「学習評価について」(シラバス)を作成しています。これは市内の中学校からも「参考にさせてほしい」と問い合わせが何度もあったくらいに充実したものとなっています。次年度はこの「学習評価について」を改訂し、よりよい活用の方法を考えていきたいと思えます。

一方で、「問題発生時の対応」「ボランティア活動」「生き方探究学習」「外部機関との連携」などの項目において、昨年度より低い評価となっています。本校の職員も若年層職員が増えてきています。外部機関との連携の取り方や問題発生時の対応など、職員会議後に行われるスキルアップ研修を活用するとともに職員間のコミュニケーションを充実させるために明るい職員室づくりに励んでいきたいと思えます。

4 学校評議員会(学校評価委員会)でのご助言

令和5年2月3日(金)に行われた学校評価委員会では、授業見学の結果も兼ねて以下のようなご助言をいただきました。

《教室環境等について》

- ・ほとんどの学級が整理整頓されていた。
- ・学級目標がどのクラスもよかった。
- ・教室・廊下・階段の掲示物が充実していた。節分についての掲示物があったが、このような掲示物を通して、季節の行事について知る子供も多いのだと思う。
- ・ギガタブによって、ノート・教科書を置くスペースがなくなっている。教科書を床に置いている生徒がいて気になった。
- ・登下校中、道に広がる子供がいる。狭い道が多いので注意喚起を。

《授業・学級の様子について》

- ・全体的に落ち着いて授業を受けているので安心した。
- ・先生方も落ち着いて明るく授業されていると感じた。
- ・授業がわかりやすかった。表現力育成の成果を感じた。
- ・租税教室で授業を行ったが、非常に楽しくできた。雰囲気の良いと感じた。
- ・ギガタブの活用によって授業の進化が感じられた。

《行事について》

- ・今年度、様々な行事ができたのはとても良かった。
- ・行事が昨年度より充実していることにほっとしている。「元に戻す」のではなく、「進化させる」という先生方の思いを感じる。
- ・コロナ禍にあって行事をこれだけ戻したことには、先生方のご苦勞があったのだと思う。

《家庭との連携について》

- ・すぐーるの活用の仕方がよく、保護者の安心につながっている。
- ・アンケートでは同じ質問項目で保護者と生徒の評価が一致しており、家庭で親と子供の会話があるからかもしれない。
- ・ネットモラル講習会は保護者にも聞いていただいていたほうがどうか。

《その他》

- ・いじめの報告が少ないことをありがたく感じる。

5 評価結果を踏まえた次年度の学校改善の方策

- ・行事の充実と働き方改革を両立させるため、効率的な行事運営を図る。
- ・授業参観、三者面談などの保護者が学校にかかわる機会を設けるとともに、職場体験やボランティア活動などで地域と連携した取組を充実させる。また、すぐーるや学校だよりを引き続き活用し、学校の様子をこまめに家庭に知らせる。
- ・本校の特色ある活動として「表現力講座」のよりいっそうの充実を図る。(ギガタブ等ICT機器を活用し、より良い「表現力講座」の在り方を模索する。)
- ・不登校対策、いじめ防止、人権教育などの研修機会をもち、生徒の個別最適な学びと学校生活の充実を図る。